

# 減災に向けた地域ネットワーク とボランティア育成の仕組み



ピースボート災害ボランティアセンター 代表理事 山本隆

1

## NGOピースボートについて



1983年に設立された非営利の国際交流NGOです。年3回の世界一周をはじめ、「国際交流の船旅」の企画とともに、国内外における国際協力活動をおこなっています。

災害支援分野においては、これまでに阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震、スマトラ沖地震のスリランカ、パキスタン地震、ハリケーン・カトリーナが襲った米国ニューオーリンズなどでも、緊急災害支援を展開しています。

こうした活動から、2002年には国連の特別協議資格を取得。世界中の人々の声を国際社会に反映させてゆく活動も行っています。

2

# これまでに行った支援活動



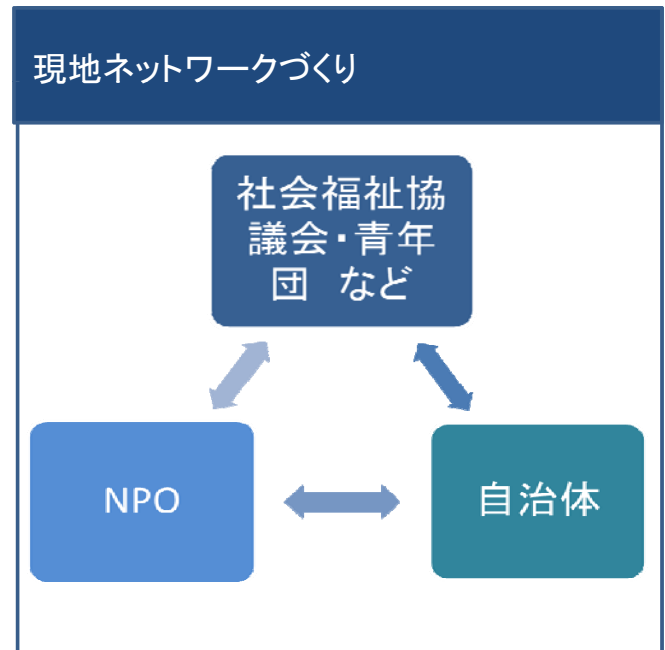
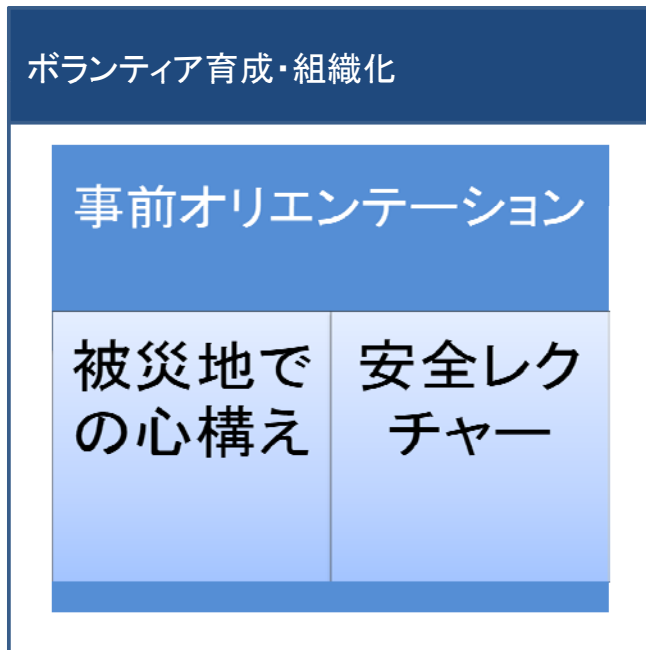
# PBVのボランティア派遣モデル

ピースボート災害ボランティアセンターでは、国内外の災害への緊急支援活動を行っています。災害の規模や種類により活動内容は異なりますが、まずは被災地へ先遣スタッフを派遣し、現地ニーズ・状況・条件などを調査した上で「ボランティア・物資・資金」の中で適切な支援の形を検討します。同時に、東京事務局でも後方支援の準備を開始することで、ボランティア派遣決定後すぐに募集を始められるようになります。被災地での活動は、日々状況が変わるのが前提。やみくもに希望者を受け入れるのではなく、遠隔地でのオリエンテーションや現地受け入れ体制を素早く整えることで、組織的かつ責任あるボランティアの活動を進めることができます



# PBVのボランティア派遣モデル

6万人のボランティア受け入れを実現したのは事前のボランティア育成・組織化と現地ネットワークづくり。



# PBVのボランティア派遣モデル



## ボランティアの育成

- 来たるべき災害に備え、自分の地域での災害に対して防災・減災に取り組む担い手「ボランティア」を育てる。

## ボランティアの組織化

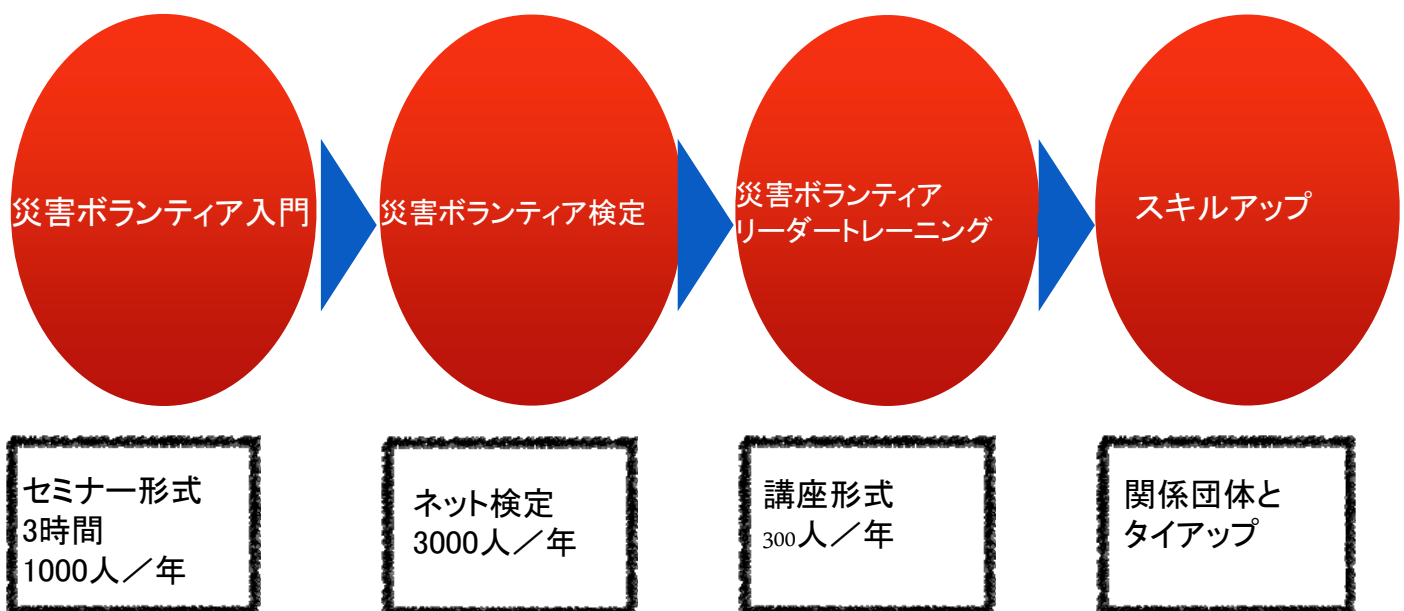
- 市町を単位にボランティアを地域内で組織化して仲間を増やしていく仕組みをつくる。

## 広域ネットワークづくり

- 各地域間のネットワーク化を進め、他地域の災害時に外から組織化されたボランティア派遣の仕組みをつくる。

7

# 災害ボランティア育成の流れ



8

個人でできる災害への備えや災害支援に関する一般知識、被災地での注意すべきケガや病気、出発前から活動後までの心構えなどについて学ぶ講座です。被災地で自分の身を守るためのセーフティーレクチャーも含まれています。

## 第1部:

自分が被災した場合  
災害支援の一般知識  
緊急時の対応  
被災者同士の配慮

## 第2部:

支援する場合  
ボランティアとしての心構え / 被災者への配慮  
注意すべきケガ、病気、自分たちの安全管理  
過去の事例から学ぶワークショップ

## 第3部:

日常からできること  
個人でできる災害への備え  
地域活動を活かす方法  
自分でできるボランティア活動

9

# 災害ボランティア検定

安全に、そして被災地に負担をかけることなく効果的な支援を行うために、ボランティアが気をつけるべきことは？ 災害支援に参加するにあたっての基本的な知識や心構えを身につけるための検定試験です。インターネット検定なので、下記セミナーに参加できない方も、パソコンで気軽に受験可能です。

## 問2

夏の被災地で、災害ボランティアとして瓦礫撤去の活動をするようになった。活動中の服装としてもっとも適しているものはどれか？

1. 足の蒸れないビーチサンダルに、風通しがよく涼しいシャツなどの格好で熱中症を防ぐ
2. Tシャツにスニーカー、ジーンズなど、動きやすく汚れてもよい格好
3. 鉄板入り長靴に長袖・長ズボンの作業着

✓ 正解と解説

## 正解と解説

答え: 3

被災地でのボランティア活動には危険が伴う。地震・津波災害などの際にニーズの高い瓦礫撤去の作業でも、足を瓦礫の間に挟んだり、釘などを踏み抜いたりしてケガをすることが少なくない。現地で借りられる装備品を確認した上で、動きやすい服装とともに、ケガを予防できる装備を準備して作業にかかろう。

災害による被害を最小限にするためには、過去の災害や東日本大震災で明らかになった課題と向き合い、ボランティアによる支援が必要です。

支援の現場で被災者と向き合い、ボランティアが安全かつ最大限の支援を行うためには、リーダーの存在が必要不可欠です。このプログラムでは、防災・減災に関する基本知識から、実際に災害現場で取り入れたノウハウを活用して、事例をもとにしたリーダーシップを学びます。

## 災害ボランティア・トレーニング カリキュラム

### ・災害の仕組みと災害支援の枠組み

国内外で起こる災害の種類とその影響を知り、日本における災害支援の枠組みを学びます。また支援を行う関連機関の特徴を理解し、その有効性と限界を学びます。

### ・災害ボランティア活動と役割

多岐にわたる災害ボランティア活動の種類や役割は時期によって変化します。「減災サイクル」の図解を使って理解します。

### ・危機管理

活動時期はもちろん普段から存在するリスクを認識し、それを回避、低減させる考え方を学びます。

### ・ワークショップ①

災害時には、被災者や行政、支援団体、ボランティアなど多様な立場の人が存在します。それぞれの立場を事例をもとに、受講者同士がディスカッションを通して考えます。

### ・災害ボランティアリーダーとしての心構え

刻一刻と変化する被災地の状況を把握し、被災者とボランティアとを繋ぐ存在として、支援活動に関わる様々な方々への配慮と多様性を尊重する考えを学びます。

### ・安全管理と緊急時の対応

災害時に起こる被害状況を知り、安全にボランティア活動を進める為に必要となる判断基準を学びます。また傷病者発生時の対応方法を学びます。

### ・ワークショップ②

災害ボランティアリーダーたちが、支援活動中に葛藤した事例をもとに、受講者同士がディスカッションを行い対応策を考えます。

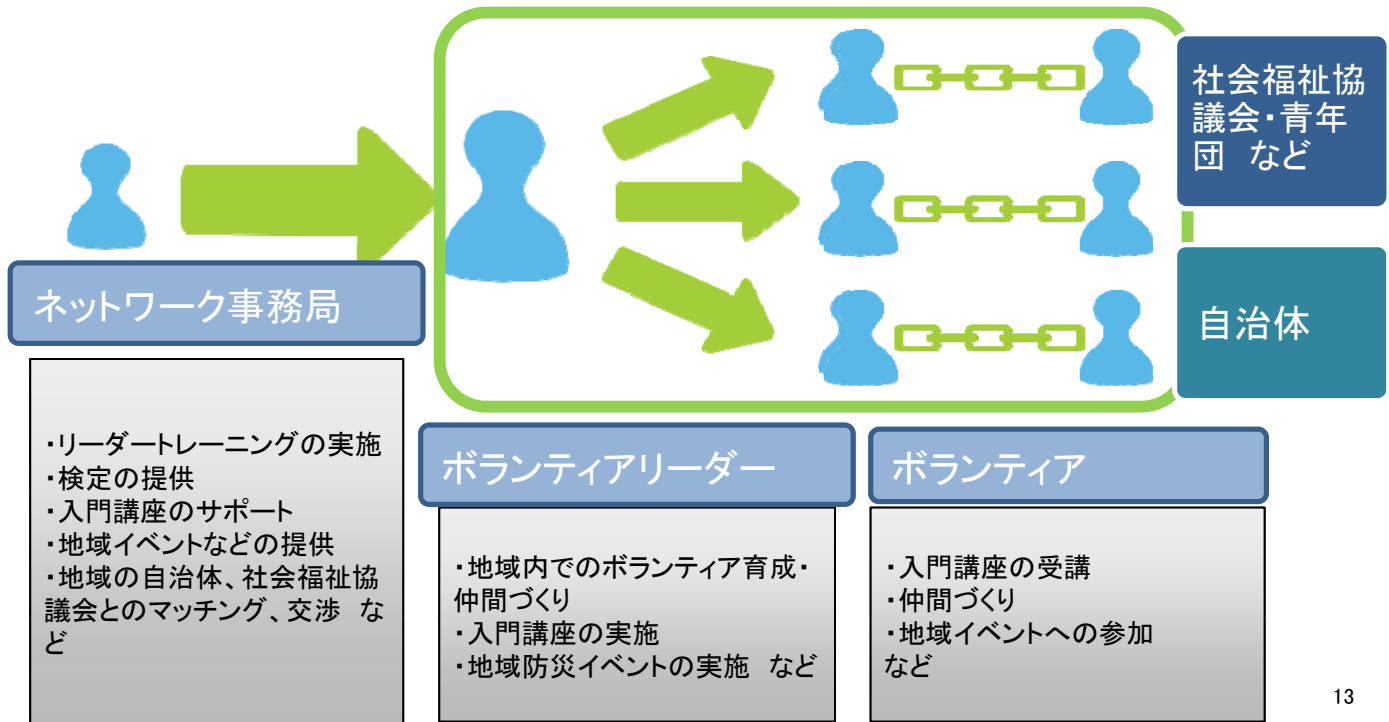
### ・災害ボランティアリーダーシップ

多様なリーダーシップ像を知り、災害支援の現場で一人一人のボランティアの力を最大限に引き出す力を養い、共に活動する際に必要となる心構えを理解します。

### 今後の備え ～地域での活動～

災害時はもちろん平常時からリーダーとしての活動は始まります。将来の災害に備えるため普段の生活す

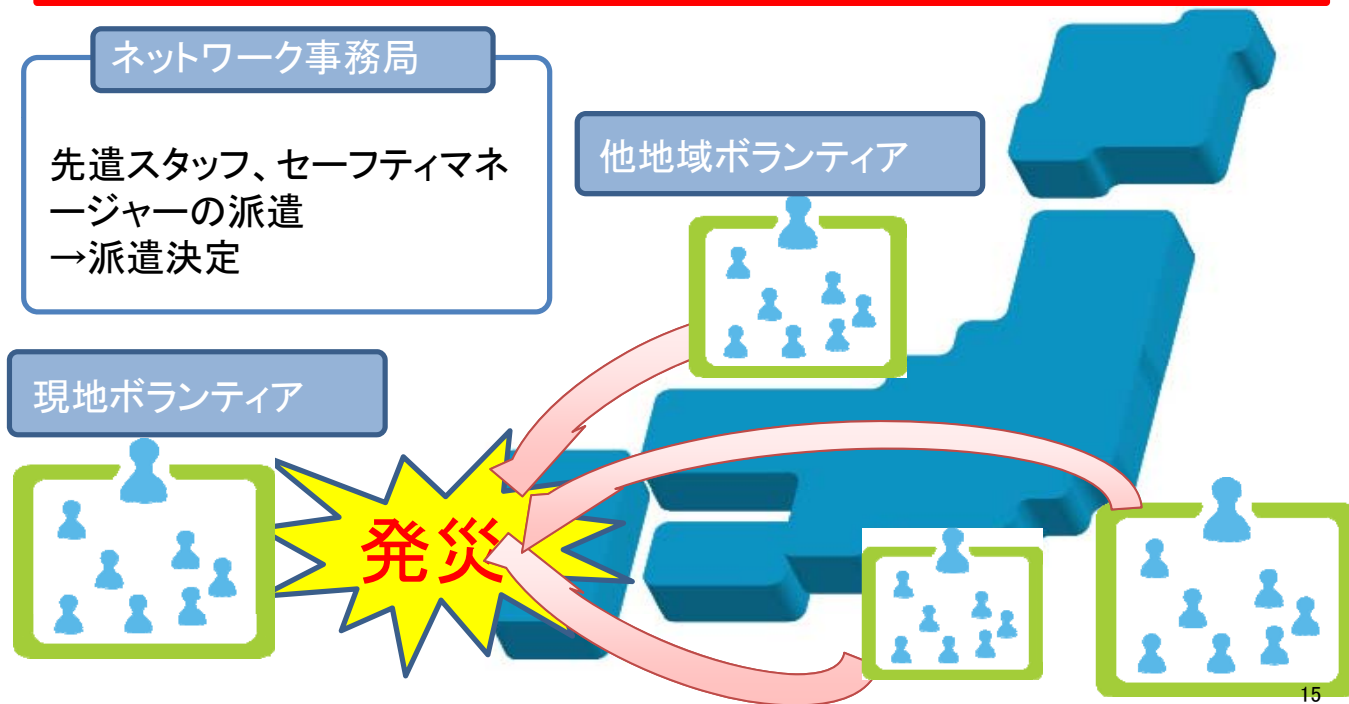
市町を単位にボランティアを地域内で組織化して仲間を増やしていく仕組みを作る。



全国に広がるリーダートレーニングの受講者やボランティア経験者をつなぐ半年に一度の減災イベントを実施。→情報交換、ネットワークを育てる。



災害時に地元のボランティア組織とともに、組織化された他地域からのボランティアを送る仕組み。





# 災害ボランティア入門

自分を守る  
大切な人を守る

参加無料  
予約制

日程 2014年 3月 29日 (土)

時間 13:00~16:30

場所

モンベル渋谷店

住所：渋谷区宇田川町11-5 モンベル渋谷ビル  
アクセス：渋谷駅より徒歩8分

定員

20名 ※最少催行人数5名

ご予約・お問合せはコチラ

☎ 03-3363-7967 (10:00-18:30/ 土日祝定休)

＼オンライン予約受付中！／



ピースボート災害ボランティアセンター

検索



株式会社 モンベル  
代表取締役会長 辰野 勇

ピースボートとの出会いは2005年に発生したパキスタン地震での支援活動からでした。私自身、アウトドアのグッズやノウハウが災害の現場でも活かせると思い、その後も新潟中越沖地震や東日本大震災などで支援活動に協力させていただきました。支援を行う現場で感じた事は、“日頃からの準備”と共に、その備えたものを使いこなせる“想像力と知恵”を身につけるということ。残念ながら災害は防ぐ事は出来ません。一人ひとりが備えることで災害による被害を少なくしたいと思っています。

# 学ぶこと、知ることが、

# いつか「誰か」を支える一歩になる

## 「災害ボランティア入門」とは？



個人でできる災害への備えや災害支援に関する一般知識、被災地での注意すべきケガや病気、出発前から活動後までの心構えなどについて学ぶ講座です。誰にでも必要な知識を今から身に付けておきましょう。参加費無料！どなたでも大歓迎です！！全国各地で開催しています。お気軽にご参加ください。

## プログラム内容（所要時間：約3時間30分）

### <第1部> 自分が被災した場合

- ・ 災害支援の一般知識
- ・ 緊急時の対応
- ・ 被災者同士の配慮



### <第2部> 支援する場合

- ・ ボランティアとしての心構え / 被災者への配慮
- ・ 注意すべきケガ、病気、自分たちの安全管理
- ・ 過去の事例から学ぶワークショップ



### <第3部> 日常からできること

- ・ 個人でできる災害への備え
- ・ 地域活動を活かす方法
- ・ 自分でできるボランティア活動



防災冊子  
プレゼント中！

## 参加者の声 / 😊



受講時間3時間半と聞いていたので、参加前は少し長いかなと思っていたが、実際に受けてみたら面白くて時間があっという間に過ぎてしまった。（30代 男性）



災害やボランティアに関して全くの未経験でしたが、災害時の具体例が判ってよかった。（40代 女性）



災害ボランティアには色々な種類があることがわかった。現場だけでなく、自分の環境に合わせてできる支援方法を具体的に知ることができた。今からでも私にできることを見つけた。（60代 女性）



ワークショップがとても楽しかった。災害についての知識や情報もちろん必要だが、聴くだけでなく自分たちで考え、答えを導き出すことも大切だと、やってみて本当に必要だと実感した。（20代 女性）



ただの講座というより実践的な内容が多いためになった。（50代 男性）